

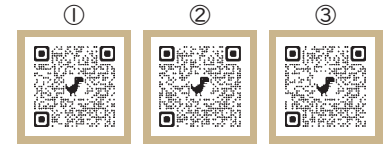


歴史資料を読み解く

テーマ 琉球に漂着した中国人

関連資料

- ①『歴代宝案』校訂本 2-09-12
 ②『歴代宝案』訳注本 2-09-12
 ③デジタル教材 泊外人墓地から琉球の歴史を考えよう



琉球国王より中国（清）へ、中国人漂着者たちの送還を知らせる書（康熙 57 [1718] 年 9 月）

(抄訳)

康熙 57 (1718) 年 3 月 8 日、宮古島の役人から首里王府へ中国人漂着者についての報告が届きました。

今年の 1 月 5 日、船が一隻、宮古島の沖合で難破したので、即座に住民を動員して救護に当たりました。経緯を訊ねたところ、この船の部隊長・王拱はこのように答えました。「この船は、中国浙江省寧波府定海鎮の沿岸警備隊に所属し、乗員 50 名を乗せ、康熙 56 (1717) 年 12 月 1 日に出港、中国沿岸を巡回中、同月 20 日暴風に見舞われ、碇や舵を失い漂流、その間に 8 名が行方不明、宮古島近海まで流され、沿岸の珊瑚礁に衝突し大破した」ということでした。

ところで、康熙 23 年 (1684) 8 月、礼部*1 より「これまでの海上交易禁止令を解除したので、中国各省の多くの人々が船を出し貿易するようになった。中国周辺の国々の国王らは、それぞれ沿岸の地方官に命じて、もし中国船が漂着した際には、すみやかに保護して帰国させるようにせよ」との通達を受け取っております。

そこで、4 月 19 日、救出された王拱たち 42 名を携帯していた武器も一緒に沖縄本島の泊村の館*2 に送り、日用品や食料、衣類などを支給しました。

5 月 11 日、漂着者一行の世話役であった毛新城より、王拱が吐血し、医者の治療を希望したので、すぐに名医を派遣し、毎日医者 2 名をつけて看病している、との報告がありました。朝鮮人参を服用するなどの治療をしましたが、その甲斐もむなしく、6 月 5 日酉の刻*3 に死亡しました。棺桶や葬式に必要な品物を用意し、泊村西の浜の松林に埋葬し、墓標*4 を建てて、村人たちに管理させました。

閏 8 月 10 日、残った兵士たち 41 名を中国へ帰すため、琉球の船に乗せ那覇港を出港しましたが、途中、暴風に遭い大岩に激突、中国人兵士 4 名、琉球側の通訳 1 名・船員 1 名が溺死しました。このたび、破損した船を修理し、生き残った 37 名の兵士を乗せて福建へ送り届けます。



『歴代宝案』第 2 集 9 巻 12 号文書より

解説

- ・『歴代宝案』は、琉球王国が諸外国と交わした外交文書を書き写した記録です。原本は沖縄戦などで失われたとされています。
- ・この文書は、琉球国王が、漂着者を送還することについて中国側の対応窓口へ送ったもので、送還の船に乗船した通事（通訳）に持たせました。
- ・中国側からは、この送還船が福建に到着した後、兵士たちが浙江省へ帰還したこと、兵士たちの送還途中に死亡した琉球人通事や船員らの遺族に褒美の品を与えることを通知した文書（康熙 58 [1719] 4 月 24 日：宝案 2-10-01）が届きました。

用語

- * 1 礼部：清朝の行政機関、六部の一つ。国の祭祀、科挙の実施のほか、琉球を含む朝貢国との外交を担当する部署。
- * 2 泊村の館：→ [「見てみよう」](#) 「琉球交易港図屏風」（浦添市美術館蔵）
- * 3 酉の刻：午後 5 時～7 時頃
- * 4 墓標：→ [「行ってみよう」](#) 那覇市指定文化財「泊外人墓地」
ここには王拱を含め、中国人漂着者 6 名の墓を確認することができます。



トライ 1

王拱たちの漂着から帰国までの過程をまとめてみましょう。

トライ 2

この漂着事件を通して、中国（清）と琉球のどのような外交関係を読み取ることができますか？